

郵便
報知新聞
第七百八十号

深川常盤町大工職高柳半七娘の事
巨商の家を奉養し、少首尾花柳を結ぶれば
身の廻り所有の品貯金も若干と賜、親里へ
帰りけり。半七は干の色澤も盛りの花と風流な
不面誘引れと悪漢の西森下町岡田吉五郎と為
ふとこの所持の金干山衣類手金品を欺り
れ詐るるを連立て上総の知義へ心差出行
けり。父半七は心痛、諸方へ尋ねあつたを不日
行衛と求むるが直に著也へ欺詐せしと忽ち
二人を京押懸々説諭は後悔、いとい再び奉公
出たり。吉五郎の情欲人目と忍び出逢居
たり。半七は煩々と思ひ、折りと神明参り参詣
する途中、出會は被吉五郎の娘と妻に世に
京強説、持餘を半七の程能抜投と行過に
と半七は傍若無人是非多くれと半七は早も
が袂裏と袖付、折廻行とせまき交り由署連
行くとくを



南興町十四番地
月岡米次郎画
土番地熊谷庄七

大福
門人 半七